

学校教育課だより

かけはし

「校訓を読み解く」

学校教育課長 鳥越 雅幸



平成二十七年年度終盤を迎えました。振り返り、まとめ、そして、次年度へのスタート準備の時期になりました。今年度は、インフルエンザの流行が遅れ、これからピークがくると言われていますが、予防、早めの受診等の対応をお願いします。

平成二十七年年度終盤を迎え、次回の訪問へが分かります。次の訪問への大きな期待につながっているように思います。指導員の先生からも「指導案も今まで以上に本時のねらいが明確になってきた」「いつもけじめあるしつけや授業態度には感心させられる」「教室の掲示がしっかりとできていて、日頃の指導がうかがえる」、「子どもたちが大いに関心を持ち、生き生きと活動できている」など、向上的に変容しつつある先生方の報告をいただいています。うまくいかないことの方が多い中、日々、授業力の向上を目指し、研鑽を重ねてきて、少

学校教育課だより  
「かけはし」  
【第10号】  
平成28年  
2月10日発行  
御殿場市教育委員会



しずつ手応えを感じてきている様子があるかかえま。

さて、市内の小中学校にはどの学校にも「校訓」があります。中学校を例にすると、御殿場中学校「猛志篤行」、富士岡中学校「正・強・美」、原里中学校「立志」、西中学校「誠」、高根中学校「守徳」、南中学校「進取と創造」です。

これら校訓には、各学校が目指す生徒像、そしてどんな人になってほしいかという地域の願いが短い言葉に凝縮されています。例えば前任校の高根中学校の校訓「守徳」は、明治から昭和にかけてジャーナリストとして活躍した徳富蘇峰氏が高根地区のために残した言葉です。この言葉には「自分のよさを人のために生かす人間になってほしい」という願いが込められています。

この願いは高根地区に住む地域の人々共通の願いです。

幼・保・小中連携一貫教育の推進、地域の学校として、義務教育修了の中学校三年生の姿を描くときに、中学校の「校訓」の読み解きは不可欠です。

また、教員にとっても縁あって、お世話になっている学校です。その地域の歴史を調べ、地域に流れている風に触れることも大切なことです。

教育課程編成の時期に、今一度母校の「校訓」について考える機会をもちたいものです。

平成二十七年年度 南中学校 市指定研究中間発表会

南中学校は、今年度と来年度の二年間、御殿場市の研究指定校として特別支援教育の研究を進めています。南中学校の目指す特別支援教育は、UDの視点を取り入れることによつて、生徒の生活しにくさや学びにくさに寄り添い、生徒が関わり合いながら「分かった」「できた」と感じられるような授業づくりについて追究していきます。そして、

学びの実感の積み重ねが自尊感情の高まりにつながることを最終的にはそれが、夢やこころざしにつながることを目指しています。

一月二十九日に中間発表会が開催され、市内外教員、市議会議員をはじめ、多くの方が参加しました。当日はあいにくの雨模様でしたが、それを吹き飛ばすようなさわやかな挨拶を交わしてくれる生徒たちの姿が印象的でした。先生方と生徒の話す様子も温かく、安心感があり、日々の教育活動や特別支援相談体制を通して、教師と生徒、生徒同士の間関係が育まれ、研究を進める上での土台づくりがしっかりとされていました。

教室の前面黒板と前面掲示は、シンプルかつ淡色化が図られており、教室の側面と背面は見通しのもてる年間スケジュール表や、生徒一人一人を認める温かな掲示物で構成されています。当日



は、十六の授業を公開していただきました。「視覚化」「焦点化」「共有化」の視点で授業を進めており、板書も「課題」「追究」「確かめる」という共通の授業プレートを使い、板書がよい意味で統一化されていました。また、授業者は、生徒の予想されるつまずきをイメージするとともに、そのつまずきに対するきめ細やかな支援を準備していました。生徒同士の関わり合いの場面においても、仲間の説明を真剣に聞く生徒や白熱した議論をする生徒の姿を見ることができました。UDの視点での授業づくりは、どの子どもにも「分かる」「できる」の実感を持たせるために、付けたい力のレベルを下げたり、下位の生徒に活動を合わせたりするということではありません。各授業の目標も、学習指導要領の身に付けたい力との整合が図られていました。

【石田善正】

幼稚園訪問記③

園児と幼稚園指導員の

かみ合わない会話



「おはようございまーす」部屋に入ると、ベニヤ合板にキヤスターを付けた台車があり、その上に大型ブロックを付けた乗り物に、女の子がまたがって床を走らせています。他にも「一台電車」が作られて、みんなに乗って楽しんでいきます。よく見ると、床にテープで「レール」まで描いてありました。わたしが先頭の女の子に聞くと、「アナユキの電車なの！」「えっ、なにに？」もう一度聞くと、ほかの子どもたちも口をそろえて、「アナ！ユ！キ！」「もうー」「なにつ！穴行き？どつかの穴に行くのトンネルのこと？」「ちーがうってばーアナ雪！」「いまだにわけが分からない幼稚園指導員に対して後ろの方から、「アナと雪の女王く！」と言われて、やっと、納得しました。実は、初めの方からそうじゃないかと思っではいたんです。「あーな、んだ！アナ雪ね〜」ダジャレも

不発で、まったくかみ合わない園児と幼稚園指導員の会話でした。

時々、わざと「物分かりの悪い大人」を演じることがあります。なにも、パソコンで調べたような「正解」をいつも答えなくともいいのではないのでしょうか。子どもたちは物分かりの悪い人に何とか分かつてもらおうと一生懸命説明します。

「正解」を聞くよりも、的外れのような答えを聞いた方が子どもの思考が活性化します。一生懸命考えをめぐらせて説明してくれた子どもたちをおおいに褒めたいものです。

今年度も、幼稚園には考える子、挑戦する子、人を心配する子、笑顔の子があふれていました。どの園にも子どもたちが安心して通ってきます。保護者も園を頼りにしていただきました。教職員の皆さんのご苦労、奮闘努力に感謝します。

【勝又立雄】

平成二十七年  
度  
初任者研修会終わる

平成二十七年度は、新規採用の教員が二十三人、養護教

諭が一人、事務職員が二人の計二十六人でした。

社会人としての一步を踏み出したこの一年間は、とても貴重な一年になったことと思えます。

先生方は、勤務校で先輩教職員からたくさんのお話を学びながら、数多い初任者研修を一つ一つ積み重ねていき、一年間で大きく成長しました。新規採用教員の二十三人は、市の初任者研修にも目的意識をしつかりと持って、真剣に取り組んできました。

第三・四回の研修は、富岳会での社会奉仕体験活動を通して、人間力の向上及び社会人としての基礎的な素養や危機管理能力の向上等につながる研修を行いました。

お年寄りや障害のある方々と積極的に関わる先生方の姿から、学校においても子どもたち一人一人に寄り添った指導をしている様子が垣間見えま



第五回の研修は、御殿場小

中学校を会場にお借りして、開催しました。御殿場小学校の高橋正彦校長先生からは、『授業づくり』についての講話がありました。授業公開は、芹澤由紀子先生の「道徳」を参観しました。御殿場中学校では、勝亦重夫校長先生から『生徒指導』についての講話がありました。授業公開は、齋藤孝信先生の「保健体育(柔道)」の授業を参観しました。初任者の先生方は、自身の日々の授業実践での悩み等を、参観した公開授業の様子と照らし合わせながら、多くの質問をしていました。

先生方は、この一年間、多くの先輩教職員に支えられてきたことへの感謝の気持ちを忘れてはいけないと思います。たくさんのお話を学んだとは言え、すぐに身に付くものばかりではありません。繰り返し経験していくことで、分かってくることもあります。今後、「謙虚さ」や「素直さ」を大事にして、先輩教職員、子ども、保護者等から、たくさんのお話を学んでください。益々のご活躍を期待しています。一年間の初任者研修、お疲れ様でした。【長澤広志】